

令和4年度第3回奈良市地域福祉協議会会議録			
開催日時	令和4年9月1日(木)午前10時から午後11時40分まで		
開催場所	奈良市役所北棟2階第202会議室		
出席者	委員	山下委員長、今西委員、作間委員、安藤委員、植畑委員、森山委員、安井委員、木村委員、田中委員、松村委員、塩山委員、若野委員、中村委員【計13人出席】(室崎委員、國分委員、西村委員、中川委員欠席)	
	事務局	【福祉部】福祉部長、福祉部次長、福祉政策課課長、障がい福祉課課長、保護課課長、長寿福祉課課長 他 奈良市社会福祉協議会局長、次長 他	
開催形態	公開(傍聴人 0人)	担当課	福祉部 福祉政策課
議題 又は 案件	1 地域福祉計画の概要版案 2 これまでの地域福祉計画推進会議での意見について 3 その他		
議事の概要及び議題又は案件に対する主な意見等			
「奈良市地域福祉計画・奈良市地域福祉活動計画」の概要版案についての説明 第1回・第2回地域福祉推進会議での意見についての説明 老人福祉センター、総合福祉センターの状況説明			
概要版について意見 ・できるだけ概要版についても「データ」を入れる。 ・具体的な計画の内容において、「わたしたち」では、主体がわかりにくい。 ・「ニーズキャッチ」「利活用」など行政的な表現は避けた方が良い。 ・福祉に携わっている人しかわからない表現がある。 ・(各重点項目)の「私たちは、」について、単語で終わっているが、「～しましょう ～していきましょう。」とか皆で取り組むことがわかるようにしてほしい。 ・写真が入っているが、写真よりイラストがいいのでは。(イメージがしやすい。) ・言葉が、難しい。			
これまでの地域福祉推進会議での意見について6点を事務局から説明 ◎「声なき声をどのように拾い、どのように支援につなげていくのか」 ◎「地域包括支援センターについて」 ◎「ボランティアや担い手確保について」 ◎「社会保障の重要性」 ◎「今後の福祉について」 ◎「福祉施策のなかで協働について」			

「老人福祉センター」の説明

- ・老人センターは、健康増進・教養の向上や交流の場として設置
- ・各種健康講座、入浴機能に加え、囲碁・将棋を楽しむ場所としても活用いただいている。
- ・高齢者人口は、10年間で1.87倍まで増加している。
- ・平成11年度以降、北福祉センター、南福祉センターが新たに建設されたが、コロナ禍前においても、利用が減少している。
- ・令和3年度、10月～11月の調査においては、実人数をカウントしたが、4館合計で、1,398人で、60歳以上の人口132,787人のなかで、利用率は、約1%となっている。

「総合福祉センター」の説明

- ・総合福祉センターの利用については、コロナ禍のもと利用が大幅に減少している。
- ・地理的要件もあると思うが、南部と山間からの利用は少ない。
- ・みどり園が令和4年4月に子どもセンターに移転、令和4年10月に休日夜間歯科診療所・みどりの家歯科診療所が11月に移転が決定していることから、利用者が減少していくことが予想される。

- ・これまでの歴史のなかで、老人福祉センター以外にも色々な施設が出来あがってきている。
- ・また、高齢者自身の多様な趣味があり、それぞれの活動を行っている。

- ・地域活動の活動拠点として必要ではないか。・総合福祉センター、老人福祉センターについて、地域包括支援センターとの連携とか含めて、議論していく必要がある。

- ・地域福祉の拠点を考えていく必要がある、既存のものを活用していただければと考える。
- ・地域生活拠点の整備拠点として考えていく必要がある。
- ・基本的には、4つの福祉センターだけでは、市内13地域拠点で整備していくこと理想。

- ・地区社協では、拠点を確保することが話題に上がっており、行政からは、公民館、ふれあい会館、福祉センターをあげられるが、それぞれ使用料の問題や、予約が取りにくい状況がある。
- ・子ども食堂、高齢者サロンを実施したいが、場所を確保できない。特に、現在の福祉センターは4カ所だけで、中心部には全くない。
- ・組織も縦割りであれば、場所も縦割り(偏在)しているので、できるだけ地域内で活動できるように確保してほしい。

- ・認知症の方については、徘徊する方について、特別養護老人ホームがある。老人福祉センターを利用する人は、基本的に元気な人が、集う場所と理解している。
- ・障害者については、障害の種別によるが基本的に何らかの支援が必要である。そのなかで、高齢者の支援が必要とされる人と障害者が同居することが難しいと感じる。
- ・老人福祉センターで障害者を受け入れることは、マンパワーが相当数必要であり、現実的に無理であると思う。
- ・今後、高齢者と障害者を同時に受け入れるのであれば、現場レベルのトラブルが起こりうることを考えられる。
- ・理念的に、最終的に時間をかけてやっていく必要があると思うが、時間をかけていくことが必要である。

- ・行政の役割、地域の役割を明確にして、行政が動かないと10年前から何もかわっていない。
- ・福祉センターについては、目的外使用の許可がなかなかできない。
- ・デマンドタクシー、買い物支援など何もできない。
- ・生活支援コーディネーターもいるが、行政の顔が見えない。行政がもっと頑張ってもらわないといけない。
- ・地区社協への支援が必要である。しくみづくりが必要である。